［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日　平成20年3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2671100101
法人名	医療法人啓信会
事業所名	グループホーム　リエゾンくみやま
所在地	〒613-0033　京都府久世郡久御山町林中垣内38-1 （電　話）0774-45-5100

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1　ひと・まち交流館　京都1階		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】（平成20年1月24日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18　年　3　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	12　人	常勤　4　人，非常勤　8　人，常勤換算　人

（2）建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての　1 階　～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	50,000　円		その他の経費（月額）	20,000　円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	○有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	○有（期間ヶ月/均等償却）
食材料費	朝食	350　円	昼食	650　円
	夕食	550　円	おやつ	110　円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（　11月　11日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		0　名	要介護2	5	名
要介護3		4　名	要介護4	0	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	88 歳	最低　77　歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	京都きづ川病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

あたりには住宅が少ないという立地であるが、久御山町の種々な行事には利用者が積極的に参加している。平屋の洋風住宅、サンデッキ、芝生の庭、農園等があり、自然に恵まれた住環境である。久御山町の唯一のグループホームであるが、開設後2年が経過し、基礎固めができてきたようである。30歳代と60歳代を中心にした職員は資格や経験とは別に介護職を天性としたような人が多く、理念である「ゆっくり、ゆったり、やさしいケア」に向かって意欲的に取り組んでいる。外部研修にも積極的に参加しており、認知症利用者にたいして友人、知人のように接している。時にはお茶の時間にみんなで話しこんで1時間も経っていたり、夕食後にお茶とお菓子を用意して和気藹々とした時間を過ごすこともあるという。利用者はみんな意思がはっきりしており、自己主張している。訪問日の昼食はカレーであったが、「おいしい」と喜んで食べる人がいるかたわらで、「このカレーは甘いし、いや」とか、「ハヤシライスは好きだけど、カレーは嫌い」などと、自由な発言がでている。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価以降改善された点は、嚥下機能維持には口腔体操を取り入れたこと、誤薬防止には飲み込むところまで見ているように注意していること、職員の勤務時間を変更して見守りを強化していることなどである。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は常勤職員が話し合って取り組んだ。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

要綱は作成されておらず、メンバーは固定ではないものの、運営推進会議は2カ月に1回きちんと開催され、記録が残されている。家族、自治会長、久御山町長寿健康課職員、地域包括支援センター職員等が参加している。「家族や地域とのつながりを強めてはどうか」とか、「緊急対応や感染症、食中毒などへの対策の確認」など、メンバーからは積極的な意見が出されており、回答したり、対応したりしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

「献立に揚げ物が多い」という意見があり、改善している。そのほかに家族の意見はほとんどない。ホームで開催したバーベキューパーティや外食レクリエーションに家族を招待しているが参加する家族は少ない。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会長とは話し合っており、地域の神社の祭りには参加している。農産物の販売とコンサートなどがおこなわれる久御山町ふるさとフェアや作品展、フリーマーケット、ボランティアとの交流などがある久御山町福祉まつりなどには利用者とともに参加したり、出品したりしている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のパンフレットには「この町でいつまでも暮らせるあんしんを……」と書かれている。グループホームのパンフレットには「ゆっくり、ゆったり、やさしいケア」と書かれている。2008年度の理念として職員が話し合って「ゆったり一緒にここちよく」「伝わるやさしさ、おもいやり」の2点を決め、ホーム内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員が話し合ったものであり、日常的にも常に業務の振り返りの原点としている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長とは話し合っており、地域の神社の祭りには参加している。農産物の販売とコンサートなどがおこなわれる久御山町ふるさとフェアや作品展、フリーマーケット、ボランティアとの交流などがある久御山町福祉まつりなどには利用者とともに参加したり、出品したりしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は常勤職員が話し合って取り組んだ。前回の評価以降改善された点は、嚥下機能維持には口腔体操を取り入れたこと、誤薬防止には飲み込むところまで見ているように注意していること、職員の勤務時間を変更して見守りを強化していることなどである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱は作成されておらず、メンバーは固定ではないものの、運営推進会議は2カ月に1回きちんと開催され、記録が残されている。家族、自治会長、久御山町長寿健康課職員、地域包括支援センター職員等が参加している。家族や地域とのつながりを強めてはとか、緊急対応や感染症、食中毒などへの対策確認など、メンバーからは積極的な意見が出されており、回答したり、対応したりしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議に参加している。相談や報告はおこなっている。久御山町が主催して、当ホームでケアマネジャーの交流会をおこないたい意向がある。	○	久御山町では唯一のグループホームであることを考えると、地域住民への認知症やグループホームへの理解と啓発を、町が積極的におこない、ホームとしては協力するような共催事業が望まれる。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは日常的に連携がはかられている。面会は多い人は週2回くらい、少ない人でも月に1回は来訪しているので、そのときに種々な情報交換をしている。長い場合は1時間も話しあう家族もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「献立に揚げ物が多い」という意見があり、改善している。そのほかに家族の意見はほとんどない。ホームで開催したバーベキューパーティや外食レクリエーションに家族を招待しているが参加する家族は少ない。	○	家族同士が交流をはかり、互いに意見を交換することによってホームの運営にまで協力する家族が出てくることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としては新しい事業所が開設した場合などに、やむなく職員の異動をおこなっている。異動する職員は利用者にあいさつしており、「さびしい」という利用者もいる。退職を防ぐ工夫としては話しやすい職場にすること、情報の共有化はきっちりおこなうこと、希望休などはシフトで応じることなどで対処している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画はないものの、外部研修の情報を収集し、積極的に受講し、レポート作成と伝達研修はなされている。認知症介護実践者研修をはじめ、認知症や認知症ケア、バリデーション、緊急対応、救急救命などが受講されている。職員一人ひとりの目標設定や資格取得への支援などが期待される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久御山町に唯一のグループホームであり、交流はできていない。	○	久御山町ではあるが、宇治市に近いので、宇治市内にあるグループホームと、職員サイドで交流が進むことが求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり利用するのではなく、利用者が納得して利用してほしいと考えているので、見学や試し利用に対応している。利用がはじまると、利用者には馴染みのもの（お菓子やテレビなど）をもってきてもらい、まず一日の流れを知ってもらっている。職員は利用者のペースをつかむようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは言葉遣いや料理の作り方を学んでいる。男性利用者には戦争中のフィリピンでの生活などを話してもらいその利用者が洋風の生活スタイルであることに納得している。とくに夜勤帯では利用者とよく話し込む。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込があると面談し、ADL、医療情報、家族構成、認知症に関する情報等を収集し、居宅介護支援事業所からのアセスメントやケアプランも入手している。利用者や家族の意向は把握しているが、生活歴や趣味・嗜好の情報は少ない。	○	高齢になり、要介護度が認定された利用者はあきらめの気持ちも強く、家族は入居したい一心であることが多い。グループホームにおける利用者の生活を豊かなものにするために、利用者の生活歴のなるべく詳細な情報を収集し、それを元に介護計画を作成することが望まれる。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者に管理者が面接し、アセスメントをおこない、ケアマネジャーが介護計画を作成している。介護計画には管理者も検討に参加している。職員は介護計画を確認している。	○	介護計画の作成には、利用者の担当職員、ケアマネジャー、管理者等、複数の人がかかわり、ケース会議に家族に参加してもらうなど、複数の意見により作成することが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングをしており、また管理者やケアマネジャーは職員の気づきを聴取し、介護計画を見直している。アセスメントは6カ月ごとに定期的におこなわれているが、状態変化のときや介護計画の見直しのときにおこなわれないこともある。	○	介護計画の見直しにあたっては、新たなアセスメントをおこなうこと、モニタリングや介護計画の作成、アセスメントの実施等には、ケアマネジャーだけでなく、担当職員や他の職員も参加すること、介護記録は介護計画の項目に沿って記載し、モニタリングにつなぐことなどが求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院への同行支援はおこなわれている。近隣住民がホームを来訪し、お茶を飲んだり、農園の作業を手伝ったりなどが期待される。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族にお願いしている。歯科医や認知症専門医との連携はない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者や職員はホームで最期までお世話したいと考えている。「重度化した場合における対応に関する指針」が策定されており、看取りの際は本人、家族、医療機関、ホームの話し合いをおこない、意思確認をして、対応を決定するとされている。このことは契約時に利用者と家族に説明されている。看護師は24時間オンコール体制にある。ターミナルケアマニュアルの作成が期待される。		
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーには職員は注意をしており、声かけにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが、利用者のペースを大切にしている。「何をするか」の自己決定を待っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立への希望は夜勤時に聞き、1週間分の献立をたて、食材の買い物は職員が毎日行っている。毎月1～2回は利用者がカレーやシチューなどの食事やお好み焼きやホットケーキなどのおやつをつくることがある。外食は月に1回、希望を聞いて行っている。鍋料理にも挑戦している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者によって月水金か火木土に分けているが、お風呂は毎日準備しているため希望すれば毎日入ることができる。マンツーマンの同性介助をおこなっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、盛り付け、食事の後片付け、食器洗い、洗濯物の取り入れと畳むこと、モップをかけたり、拭き掃除などの家事や、日めくりをめくる、花の水やり等の役割を果たしている。また新聞や雑誌を読む、刺繍、歌、書道、学習療法、音楽療法などが楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物など、週2回は外出している。花見と紅葉狩りの年2回は宇治や城陽など、少し遠出の外出をしている。利用者の個別外出は家族にお願いしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	平屋建てであり、玄関や勝手口だけでなく、居間からサンデッキへと、どこも施錠されておらず、出ることができる。門扉も鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定もふくめて避難訓練は年2回おこなわれており、消防計画もある。消火器や感知器は備えているが、通報機、防火管理者、備蓄、防災協定書は準備されていない。	○	火災には防火管理者、スプリンクラー、通報機などを備え、備蓄を準備することと、地域住民との協力の話し合いなど、災害対策は火災のみならず、地震や台風も想定して行うことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量の記録をとっている。水分摂取量は注意が必要な人のみ記録している。献立のカロリー値や栄養バランスは法人の管理栄養士に毎月点検してもらい、コメントをもらっている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築平屋建ての洋風住宅、おしゃれな表札のかかった門扉から玄関までのエントランスにはプランターに花が植えられている。居間から広いサンデッキに続き、芝生の庭や広い畑がある。内部は適度に視線をさえぎる設計になっており、家庭的で落ち着いた雰囲気である。食卓の椅子は動きやすく工夫されたものである。大きな観葉植物の鉢、書棚には雑誌や本があり、上には花を活けている。ソファには利用者手作りのパッチワークやクッションがおいてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には木製のきれいな色刷りで花や名前を書いた表札をかけている。のれんや自分の飾り、クリスマスリースなどを掛けている人もいる。仏壇、椅子、じゅうたん、テレビ、時計、カレンダー、本やアルバム、人形、手製の布の飾り絵など、利用者がもちこんだ家具や道具、飾りが置かれ、自分の部屋としてのレイアウトになっている。		